

小青盤四百個 小青碗二千個

硫黄二千五百斤

右、暹羅国に咨す

宣徳十年（一四三五）九月十二日

礼儀の事

咨

1-40-20

琉球国中山王より暹羅国あて、欲沙每等を遣わして公正な交

易を請う咨（一四三六、一〇、一）

琉球国中山王、見げんに礼儀の事の為にす。

微邦は東海に遠居するも、昔より今に及ぶまで貴国と深交するに縁より、通年遣使して微誠を礼献するに、常に珍贖を回惠し、及び四海一家を念おもいて永く往来を通ずるを蒙る。切に照らすに、理として合に特に正使欲沙每等を遣わし、専ら礼物を齎し、前詣して奉謝せしめて以て遠意を表すべし。幸希こいねがわくは海納せよ。更に望むらくは、今差つかわす人船の装載する磁器は、両平に胡椒・蘇木等の貨を収買するを寛恤せんことを。回国して大明国に貢するに備えん。煩わづわくは早すみやかに発遣し買売せしめんことを。風かぜに趁おりて回還すれば便益ならん。今、奉献の礼物を將て開坐し移咨す。

施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開しす

花段五匹 素青段二十四

腰刀五把 彩色扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個 硫黄二千五百斤大 三千斤小

右、暹羅国に咨す

正統元年（一四三六）十月初一日

礼儀の事

咨

只だ船一隻のみを差つかわす 通事鄭智・梁①

徳仲の二人去ゆく

注（一）梁徳仲 久米村吳江梁氏（亀嶋家）に通事として名があり、

この派遣について記す（『家譜（二）』七五三頁）。

1-40-21

琉球国中山王より（暹羅国あて力）、歩馬結制等を遣わして

速やかな交易を請う咨（一四三七、八、一六）

琉球国中山王、見げんに礼儀の事の為にす。

切に照らして惟うに、貴国と交わりて積つ多年なり。感激の情

懐愈々□固より深くして、四海一家と為し共に万載の太平を享けん。誠に懇懃を感じて深く用て喜謝す。此の為に今、正使歩馬結制等を遣わし礼物を齎捧し、順字号海船一隻に坐駕し詣前して奉獻せしめ、少しく微誠を伸べて以て遠意を表す。幸希わくは海納せよ。仍お望むらくは来人の蘇木・胡椒等の物を貨易するを寛恤せんことを。早やかに風に趁りて回国せしむれば、便益と為すに庶からん。今、奉獻の礼物を將て後に開坐す。咨して施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

閃段五匹 素青段二十四

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個 腰刀五把

扇三十把 硫黄二千五百斤大 三千斤小

正統二年（一四三七）八月十六日

礼儀の事 順字号船 通事梁徳仲 火長等物度

注\*本文書はあて先を欠くが、暹羅国への咨である。

1-40-22

琉球国中山王より（暹羅国あてカ）、欲沙每等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四三七、八、一六）

琉球国中山王、見に礼儀の事の為にす。

切に深く感ずるに縁るに、貴国は情意もて恵みを下し、近年、船の回□する毎に遠人を寛恤し貿易を従容し、早やかに回国せしむ。誠に感激の心を以てして、未だ曾て少しも替らず。今此に特に正使欲沙每等を遣わし、礼物を齎捧し詣前して奉獻せしめ、以て芹忱を表す。幸希わくは叱納せよ。更に煩わくは来人の磁器等の物は、蘇木・胡椒等の貨を易買し来船に装載せしむるを聴さんことを。早やかに風に趁りて回還せしむれば便益なり。今、將に奉獻の礼物を開坐せんとす。咨して施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

閃色段五匹 素青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個 硫黄二千五百斤大 三千斤小

正統二年（一四三七）八月十六日 安字号船通事鄭智 火長昆第

礼儀の事